

みの MINO EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版

特集

第41回

開催！ジャパ ンホーム ショー

2019年11月13日(水)～15日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)において住宅・建築関連専門展示会「Japan Home & Building Show 2019」が開催された。「第41回ジャパホームショー」のほか、「第3回団地・マンションリノベーション総合展」「第5回店舗・商業空間デザイン展2019」などを同時開催。全国タイル工業組合の出展ブース「CERAMIC TILE PLAZA(セラミックタイルプラザ)」を中心に紹介する。



セラミックタイルプラザは全体を黒で統一。

今年は、来年の東京オリンピック開催の関係により、例年と異なり、西エリアが会場となった。

CERAMIC TILE PLAZAの展示コンセプトは「タイルで楽しむ空間づくり」。全国タイル工業組合員25社、39枚の新作タイルのパネルにより街並みを表現。コミュニティの中心にタイルが活用されるような空間づくりを行なった。昨年に続き、憩いの場となる噴水とベンチを設置、タイル仕様はリニューアルした。

Q-CAT認定タイルや認定接着剤等の展示、ブース内イベントとして、女性職人による接着剤張りの施工実演を1日3回実施した。



昨年に続き、噴水とベンチを設置。ベンチに座って実演に見入る人も。

アンケートに回答した方にはQ太くんのオリジナルグッズを進呈。今年はポーチ。



接着剤張りの施工実演では、映像による解説を導入した。

※Q-CAT：外装タイルと有機系接着剤の組合せ品質認定制度)



毎年おなじみ、Q-CAT マスコットキャラクター・Q太くん。子どもたちにも人気。



「CERAMIC TILE PLAZA」

各社パネルの紹介

全国タイル工業組合の出展ブース「CERAMIC TILE PLAZA」では、組合員各社の25社39枚のタイルパネルを展示した。



エキシズ
「豊田スラグタイル」



オザワモザイクワークス
「オールドクラブグレイス (ボーダー)」



「コルセア」



「モルビィ」



「ORIGAMI」



「ヴェイロン」



「FOG(フォグ)」



「パタラ」



「V-ターMin/
V-ターMinデザインシート」



「カルセラ」



「アンデミ ジオグラフィ」



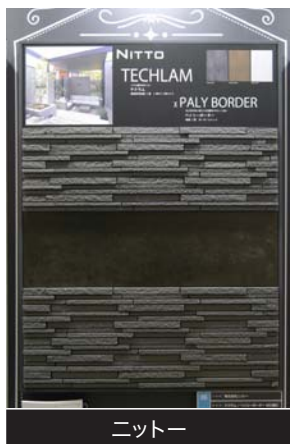
「カテドール」



「ショコラボーダー/
燐色(いぶしき) MIX張り」



「マルコ/ビンテフォーモ」



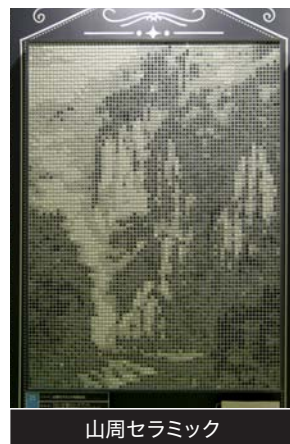
ニットー
「テクラム/
ペイリーボーダーMIX張り」



久松製陶
「コレ/アイビー」



丸万商会
「DECO SERIES」



山周セラミック
「10x10純シリーズ アート
(10ミリ角 特白生地モザイクタイルアート)」



山延製陶所
「OH試作品」



KYタイル
「フォンセーヴ/ルリエフ
(ラジアン柄)」



LIXIL
「トラベッツ」



TNコーポレーション
「キール」



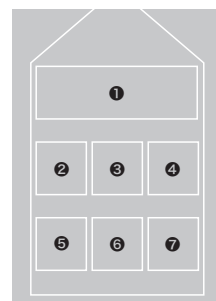
アイカ工業
「ストロングガードタイル工法」



美濃焼クールアイランドタイル振興会
美濃焼CTタイル振興会



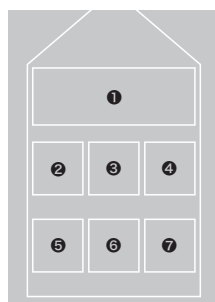
モザイク工房



- ①丸仙化学工業所
- ②④⑤⑦オザワモザイクワークス
- ③⑥山延製陶所



モザイク工房



- ①山周セラミック
- ②⑥⑦玉川窯業
- ③④⑤各務製陶

人気の タイルは？

来場者を実施したアンケートでは、「クリックレ
ア・サルマ」が「淡い色合いで癒し、優しさを感じた」などの理由で一番人気。ほか、「カテドール」、「窯しずく」が上位に挙がった。



クリックレア・サルマ
(名古屋モザイク工業)



カテドール
(名古屋モザイク工業)



窯しずく
(LIXIL)

タイル関連および注目した展示

企画展示とヨーロッパの製品

企画展示「素材と空間の最新のトレンド」(企画・プロデュース:ゼロファーストデザイン)では、内外装マテリアルの色彩と表情に注目。約20社がテーマにもとづいた製品を展示し、新たな空間のトレンドを提案。タイル関係ではTNコーポレーションが、自然が作り出す形をモチーフにした「組絵」シリーズを展示した。

EUパビリオンでは、スペインのタイルメーカーcevivaが出展。小さなブースながら、鮮やかな色を揃えた10センチ角タイルや、八角星と十字のタイルが目をついた。展示用のオリジナルの箱やパンフレットも可愛いデザイン。

フランスの瓦やヨーロッパの輸入れんがを扱うのは松原工業。ヨーロッパでは平瓦を壁に使うとも聞いた。

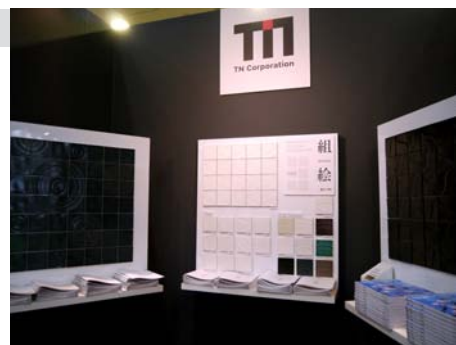
瓦タイルと金属塗装のガラススタイル

毎年出展している淡路瓦工業組合は、屋根瓦のほか、敷瓦やタイルを展示。「円坐(まるご)」は、大小6パターンを混ぜて自由なデザインができる瓦タイル。淡路島の海岸に打ち上がる角のとれた丸い瓦をイメージしている。オリジナル瓦コースターなど、オーダーメイド製品も。

カウンターに張られたタイルは、ガラス素材に金属塗装を施したもの。銅製品を特産とする富山県高岡市に所在し、金属素材に塗装を施す杉本塗装の製品で、gold(金)、silver(銀)のほか、copper(銅)もあり。「マルマル」「ギザギザ」「ドット」などの品名もユニーク。

カラフルな木材

テーブルの天板に並ぶ色とりどりの木材が遠くからでも目立っていたのは、ウッドワンのブース。無垢の木材を用いた家具や建具、内装材などの製造販売を行なう会社で、商品の中には美濃焼タイルを使った洗面台も。展示されていたのは、床や壁に用いる内装材「KITOIRO」で、全88色を揃える。



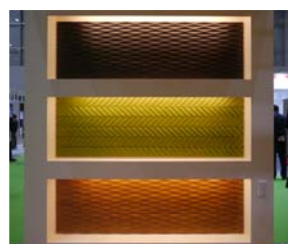
TNコーポレーション



淡路瓦工業組合



スペインのタイルメーカー「ceviva」



ウッドワン



松原工業



杉本塗装



「今井兼次 不死鳥のモザイク 一細部に宿る、造形の魂」

多治見市モザイクタイルミュージアム(岐阜県多治見市)では、建築家・今井兼次の「フェニックス・モザイク」に焦点をあてた企画展を開催中(2020年1月13日(月・祝)まで)。断片を寄贈された「糸車の幻想」にまつわる経緯を中心に据え、大多喜町役場、旧東洋女子短期大学(現 東洋学園大学)のモザイクなども取り上げ、今井の作品の魅力に迫る。

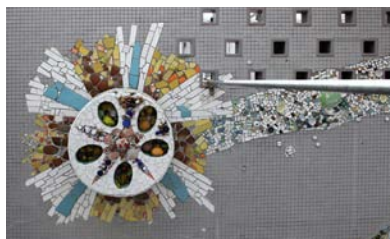


糸車の幻想

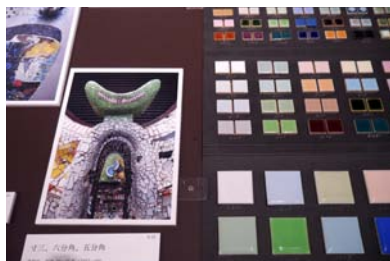


大阪・日本町ビルディング
「糸車の幻想」部分(「織女星」)
画像提供: (株)竹中工務店

繊維の町を象徴し、セタと糸車から織りなされる布をモチーフとした。サイズは18×12メートル、奥行き2.5メートルを越え、レリーフとしては大規模な作品。



大阪・日本町ビルディング「糸車の幻想」部分
(「織女星」)画像提供: (株)竹中工務店



「糸車の幻想」
サンプリング 火鉢片
制作年代1961年頃／大阪商工信用金庫蔵(多治見市モザイクタイルミュージアム寄託)
「火鉢を使うことで、海外のものでは味わえない独特の風合いと色感を示してくれることを知った」と今井は述べている。



「糸車の幻想」
サンプリング 陶片(塊)
制作年代1961年頃／大阪商工信用金庫蔵(多治見市モザイクタイルミュージアム寄託)



「糸車の幻想」3D再現模型
製造元: (株)竹中工務店／2016年／大阪商工信用金庫蔵

寸三、六分角、五分角の
タイルのサンプル
製造元: 複数社／制作
年代昭和30～35年／
多治見市モザイクタイル
ミュージアム蔵
「糸車の幻想」で用いら
れたものと思われる。

モザイク片に込めた思い

今井兼次(1895～1987)は、アントニオ・ガウディを日本に紹介したことで知られる建築家。後期の作品に施された「フェニックス・モザイク」は、ガウディの志を受け継ぐような彩り豊かな作風で、今井の代名詞ともなっている。

今回の企画展は、2018年度、今井のモザイク作品「糸車の幻想」の一部「織女星(おりひめ)」を受贈したことを記念したもの。「糸車の幻想」が設置されたのは大阪の東邦商事本町ビルの竣工と同じ1961年。ビルの解体・新築に際し、作品を移設する計画だったが、破損などの理由により復元に変更。当初「織女星」は再利用のために取り外されていた。

会場には、復元のサンプルとして取り出された陶片を展示。これらは、今井自身がモザイク作品を設置する土地の周辺住民から、食器や火鉢を譲り受けたり、「窯

元巡礼」と称して各地を回ってもらい受けたりして集めたもの。今回の調査によりその具体的な道程、陶片の生産地が明らかとなった。また、今井によるモザイク作品のラフスケッチも展示。そこからは陶片の配置まで考えていたことがわかる。

最新の技術と手作業で復元

「糸車の幻想」の復元の過程を追った映像では、複雑な復元作業を完成へと導いたのが、三次元計測などの最新の技術とともに、細かな手作業の集積であることに驚かされる。

展示を鑑賞した後は、大阪商工信用金庫新本店ビル(設計:安藤忠雄／大阪市中央区本町・堺筋本町駅近く)で、まさに「不死鳥のように」蘇った作品を我が目で確かめてほしい。



大多喜町役場「ベントハウス」東の壁

大多喜町役場のモザイク

建物の設計も今井が担当し、1959年に竣工。屋上のペントハウスの壁面や屋上面に、鶴などの町の人々に親しみのあるモチーフで制作されたモザイクは、初の「フェニックス・モザイク」とされる。大多喜町は千葉県の房総半島に位置する。



大多喜町役場のモザイクは現存するため、陶片の展示はなく、写真での紹介。今井の残した言葉にも注目した。

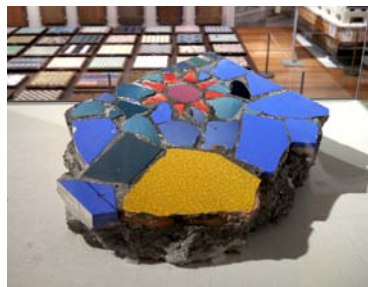


東洋学園大学(旧 東洋女子短期大学)のモザイク

竣工は1961～1964年。現存する「岩間がくれの堇花」ほか、屋上などに「永遠の友情」「芽生えから開花」「思い出の四季」「繁栄の樹」が制作されたが、これら4作品は解体。



東洋学園大学
「岩間がくれの堇花」
画像提供: 東洋学園大学



旧東洋女子短期大学
(現 東洋学園大学) 陶壁断片
制作年代1963年頃／東洋学園大学蔵

「永遠の友情」部分(左、下)。
在校生や卒業生らが提供した陶片によってつくられた。



フェニックス(不死鳥)の名称には、不要になった陶器を再利用して蘇らせるという意味が込められている。

受贈した「織女星」の見学もお忘れなく！

「織女星」は、ミュージアムの臨時駐車場に隣接する笠原神戸・栄記念公園に設置されている。直径1メートルほどで、今井が手がけた「糸車の幻想」の部材として残されたものの中では、当時の形状が維持されている最大の断片。

